



吳鎮第一三四七號

九十三

第三部

第四部

1102

1103

軍艦天龍及廿六號水雷艇汽鐘裝置変更、義符具申

去三十年三月吳鎮第一三四七號、二軍艦天龍大和

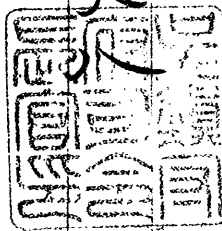
及第廿六號水雷艇汽鐘新製上申按區記、裝置

変更回面、内軍艦天龍及第廿六號水雷艇、分提

出未済、処右記表示、通り出候、付提出仕候也

明治三十三年八月二十七日

吳鎮守府司令長官柴山矢



海軍大臣山本權兵衛殿

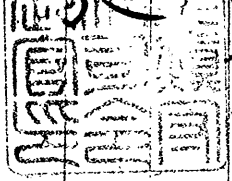

一九六九

附同白紙多頁同封紙

五

五

汽鐘

九ノ廿二  
 切符具申  
 天龍大和  
 記、装置  
 瓶ノ分提  
 候也  
  


1103

汽罐ノ入換

海軍

一 軍艦天龍汽罐改造図

一 改造汽罐附スチームドーム図

一 勞世天號以雷艇汽罐組立図

一 汽罐附安全氣塞汽弁図

一 汽 ホイラー・モウシタング図

ノ

夏曆六月三十日號  
吳鎮第三一九六号軍艦明石改道新設件左

指令案

母 旨

大臣 濟  
次官 濟

軍務局長

軍事課長

機關課長

造船課長

副官 濟

參事官 和

三丁年五月九日起案

發付 五月九日



新 記 康 詔 許 云

但しシートと錨ハ現在ノ通備付置ラベシ  
明治三十二年五月九日

新 十 第 中 通 船 工 事 増 備 及 び シ ー ト 新 設  
一 操 舵 機 桑 電 機 室 通 風 装 置 改 造

洋 画

吳鎮第二一九六號

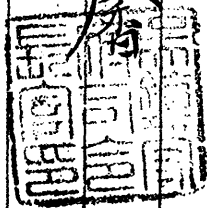
遊樂課長

軍艦明石船体機関部改造新設等ノ義行上申

軍艦明石シート、エンジン及付属具陸揚其他船体機関部改造新設方面ヨリ常備艦隊司令長官ヨリ要求相成請查セシメ共ニ別紙事方按及理由書ノ通り施工ヲ要シ共ニ若手方至急陸認許相成度別紙送船廠長ノ意見見書相添ハ此致上申 矣也

明治三十三年四月二十二日

吳鎮守府司令長官 野村 井上 良 敬 啓



海軍大臣 山本 權 兵衛 殿

官房第六三〇號

海

軍

附同向五枚 官房第六三〇號

源戸

源戸、秋は海に供用スヘキ築室ナリ  
 即チ福海用トシテ備ヘタンシートアココル  
 花コシートヤブル  
 子助ぬむ家々の陽り  
 源戸ノ系証人負助る七十九人ニ爲シ  
 端丹ノ人負助るニ於人ナリ



シートア  
備付置

八ヶ岳山十ノ  
 シートアニコ  
 千九人ノ  
 ナリ



シートアニコハ現在通  
 備付置也

軍事部

1109



軍艦明石如機関部改造新設工事對スル意見書  
 軍艦明石シートエンジン及其付属具陸揚外武庫改造新設  
 工事精査表處別紙記載工事方按通り施エテ要スル  
 モノト認ム

明治三十三年四月 日

吳海軍造船廠長 黒川勇 能



海軍

IIII

軍艦明石船体機関部改造新報  
方按及理由書

船体部

改造

二 シールドエンジン及其付属具陸揚

理由 元來本艦ニシールド上錨、備付ルモノ之ヲ使用スルヲ装置

甘ク單ニ錨ノシラ搭載シテカ故ニ其用ヲナサレシニ付

方按 シールドエンジン及付属具陸揚ヲナスト

工事豫算金拾圓

工事日数拾日間

新設

一 第四通船倉隻及之ニ當テアボツト共新設

理由 本艦ニ通船倉隻備付ルモノ之ヲ分舷艇及糧倉品

運搬ノ兩儀、使用シ其不便不効殊ニ本艦乗員ニ對シ

端舟、教割合、少く即、外、調音、通、了、付  
方、按、才、一、図、示、す、如、此、装、備、す、り、

工事、総、算、金、千、円、 幸、日、教、三、十、日、間

機、関、部

改、造

三、操、船、機、関、通、風、装、置、改、造

理由、現、在、若、生、ノ、送、風、機、直、径、小、シ、送、り、室、内、ノ、空、氣、ヲ、充、分、に、抽、出、し、下、放、す、故、に、室、内、ノ、温、度、昇、騰、し、機、関、事、業、上、に、困、難、有、り、

方、按、才、高、ク、以、テ、現、在、送、風、機、下、部、に、直、径、八、〇、〇、〇、ノ、送、風、機、ヲ、増、設、し、之、に、依、リ、舷、外、新、鮮、ノ、空、氣、ヲ、送、入、し、現、在、ノ、送、風、機、ノ、吸、入、空、間、ノ、空、氣、ヲ、抽、出、せ、し、用、に、供、せ、し、下、部、に、増、設、す、る、送、風、機、ノ、送、風、量、一、時、百、約、七、百、五、

○立方ノリト

工事豫算金八百五十圓 工事日教五十圓

今工事竣工豫定期限明治三年六月廿日

以上各取捨工ノ増減ノキ重量大ノ以

高備品於テ減スルコト 八百廿五キロ

推進板、昇降機、  
補脚板、  
増スルコト 百拾キロ

差引減七百廿五キロ

五

軍艦明石裝載舟艇配載人員調

乗組總員 参百拾九人 内 定員 参百拾九人 備員 九人

裝載舟艇 長 ケル 配載員 八人

流 艇 八五卷。 廿七

ピンネース 九卷四。 七卷

第四カワタル 八五卷。 四廿

全 八五卷。 四廿

カレー 八廿廿。 廿六

ギグ 八廿廿。 廿六

通 船 七卷。 廿五

計 廿百廿七人

軍

竹トシテ用ヒ得キ浮流物

フカールノインニマード

スウインギングゲーム

下士卒食卓及貯蔵板類

前記浮流物ヲ紐立テ竹代トシテ約拾人余ヲ乗載スル  
ヲラ傳故ニ殘負者拾人

海總第二九五號

海軍

指令案

兵鎮第四九六八号之三軍艦摩耶及赤城汽罐煙  
筒延長方件認詳一ス

但修理之事之要否も其席より之施行ス

明治三十二年六月二日

大臣 濟次官  軍務局長 

造船課長  軍事課長  機關課長 

三十二年五月八日起案

副官



參事官

發行  
六月二日



分海軍要略  
新編海軍要略  
七ノ要二ノ一

吳鎮第四九六八號之三

海軍課

上申

軍艦摩耶及赤城汽鐘煙筒延長方員表、各本艦  
長より要請有之調査セシメ候所處別紙工事方接  
及理由書一通、施工ヲ要シ候余者手方件認  
許相成度別紙送付候長ノ意見見書相添付青  
上申候也

明治三十三年二月二十三日

吳鎮守府司令長官 野村井上 良 敬




海軍大臣 山本 權兵衛 殿

海軍第二九五號

海軍



海軍							<p>三海軍造船廠長黒川勇健</p> 	<p>明治三十三年二月二十一日</p>	<p>試註載工事方按ノ通シ施スラ要スルモノト認ム</p>	<p>軍艦摩耶及赤城汽鐘煙道延長ノ件精査スルニ別</p>	<p>軍艦摩耶及赤城汽鐘煙道延長ニ對スル意見書</p>		
----	--	--	--	--	--	--	--	---------------------	------------------------------	------------------------------	-----------------------------	--	--

一 汽罐煙筒延長方

軍艦摩耶及赤城機關部改造工事方按及理由書

方按言ノトル參ロミリ延長

理由從來ノ經驗ニ徴スルニ其大短ク隨テ通風不良ノ多ク汽

釀不充分ナルカ故ニ曾テ各本艦ニ於テ候リニ是ノ

トル參ロミリ延長セシトコロ好結果ニ付キ

志復分

工事豫算金八拾圓

工事日数拾四日間

本文工事ハ兩艦共目下港内ニ在ラサルヲ以テ該工期限豫定シ難シ

海軍

海軍省  
文書

一〇〇三ノ四



軍造部海軍艦艇部部長中村正造  
 一九〇〇年四月二十五日  
 東京海軍工廠長  
 中村正造  
 海軍省海軍艦艇部部長  
 中村正造

東京海軍工廠長

海軍省海軍艦艇部部長

軍造第二四九號ノ三

海

軍



本所煙筒のつぎ

本所煙筒の通事長火の通事本力に

暑状 十ノ宛合 十ノ焼リ 十ノ流 十ノ

十ノ、十ノ、十ノ、十ノ、十ノ、十ノ、十ノ、十ノ

十ノ、十ノ、十ノ、十ノ、十ノ、十ノ、十ノ、十ノ

十ノ、十ノ、十ノ、十ノ、十ノ、十ノ、十ノ、十ノ

十ノ、十ノ、十ノ、十ノ、十ノ、十ノ、十ノ、十ノ

十ノ、十ノ、十ノ、十ノ、十ノ、十ノ、十ノ、十ノ

十ノ、十ノ、十ノ、十ノ、十ノ、十ノ、十ノ、十ノ

十ノ、十ノ、十ノ、十ノ、十ノ、十ノ、十ノ、十ノ

十ノ、十ノ、十ノ、十ノ、十ノ、十ノ、十ノ、十ノ

十ノ、十ノ、十ノ、十ノ、十ノ、十ノ、十ノ、十ノ

海軍

續集八七三番ノ二

三牛生ハ材ニシテ九揮一ノ  
怪有ハ件取河ノ事日新  
ノ摩耶未体上同探ノ事  
毛西長材上Pの生人正  
早若名

男ヲ子母有海横水以流  
法

法

軍造第三四九號ニ

海軍

軍務局長

海軍省

海軍



軍艦摩耶及赤城汽罐煙筒、從來經驗徴るに  
 其丈、短ク通風不良、劣メ汽壓不充分ナルニ  
 長ク一米突三百リ、通長方異、不充分ナリ上申  
 有、此ノ同形軍艦愛宕(馬海)於テ、如何  
 可加、或、有、個、之、ハ、意、見、ヨ、回、報、方、欲  
 之、也

三十三年三月五日局長

(愛宕) 横濱  
 (馬海) 横濱  
 (各) 横濱

軍造第二四九號

(山口甲)

軍令部長



次長



第一局長



副官



六二二

副官



參事官

發付局  
六月三日



三十二年六月十一日起案

艦政本部長

副官

第三部長

部員

大 權 總務長官



第一部長

第二部長

第四部長

軍務局長

第二課長

第一課長

課員

指令案

吳鎮第三五七四号 四軍艦浪速兵裝隊正

海總第三九九號





艦政本部

1127

第三部

1128

興績第2574番白

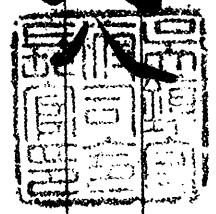
上申

軍艦遠兵装改正に伴て取後砲台其他別紙工事  
方按及理由書ノ通リ改造ヲ要ス候条著手才至息  
事認許相成度別紙造船廠長之趣見書相添

目面之及

提出候條此書申添候也

司令長官柴山矢



海軍大臣山本權兵衛殿

海總第三九九號

海軍

艦政本部

1127

第三部

1128

興鎮第二九七四號白

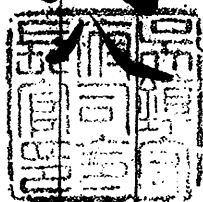
上申

軍艦復遠兵裝改正に伴て取後砲台其他別紙工事  
方按及理由書ノ通改造ヲ要シ候条著手才至息  
時認許相成度別紙造船廠長之意見書相添  
此旨上申候也

但重量増減表ハ進テ提出候條此旨申添候也

明治三十三年六月六日

吳鎮守府司令長官柴山矢八



海軍大臣山本權兵衛殿

海軍第三九九號

海軍

軍艦浪速船体部改造ニ對スル意見書

軍艦浪速前台砲臺以下七廓改造ノ件精査候処別紙  
工事方按及理由書ノ通り施行ヲ要スルモノト認ム

明治三十三年六月四日

吳海軍造船廠長 黒川勇能



海軍

軍艦浪速船体部改造工事方按及理由書

可、一、前後砲臺改造

方按 在末、砲台各二箇ニ示スル如ク台ヲ設クルコト

理由 前右如拾六枚砲ヲ安式拾五枚速射砲ニ換装、為ノ

工事豫算金 参千五百圓 工事日数 六十日間

可、二、拾六枚彈藥通筒口防禦取除キ方

方按 拾六枚彈藥通筒口防禦ヲ取除キ甲板材ヲ張リ、ウオーキ室ニ

ラ設クルコト

理由 揚彈藥裝置改正ニ伴ヒ兵員動作上障礙トスルニテナラズ、若

シ敵彈被防藥ニテ破烈シテ力彈片飛散シ及テ砲身ヲ傷

クルノ虞アルニテ

工事豫算金 壹千五百圓 工事日数 二十日間

可  
三 彈藥通筒改造

方按箇面ノ通り通筒ヲ改造スルコト

理由 揚場彈藥装置改正ニ付

工事豫算金壹千四百圓

工事日数二十日間

可  
四 水壓機全部取除方

方按水壓機全部ヲ取除シヨト

理由 兵装改正ニ伴ヒ水壓機使用ノ必要ナキニ付

工事豫算金叁千六百圓

工事日数二十日間

可  
五 水壓轉舵機、通常蒸気轉舵機改正

方按従来ノ手力轉舵装置、其低保存シ置キ、蒸気轉舵機ヲ箇ニ

示メ位置ニ設ケ其滑輪ヲ司令塔内或ハ轉舵機室内ニ於テ

同因シ得ル様装置スルコト

理由 前項水壓機全部取除ニ付

機務課三務課

工事豫算金六千八百圓

工事日数百三十日間

可六一重速射砲一門四連諾典砲拾式ヲ改造

方按改正ノ砲架ニ適合スル様ニ必要ノ踏台造ル

理由現在裝備ノ四十七ノ保式重速射砲六門及一門四連諾典砲

六門ノ四十七ノ山内連射砲拾門及四十七ノ山内輕速射砲二

門ノ換裝ニ付

工事豫算金壹千貳百圓

工事日数三十日間

可七二彈藥庫總ヲ改造

方按彈藥ノ數量ニ適合スル様改造ノ

理由兵裝改造ニ付

工事豫算金六千五百圓

工事日数六十日間

全工事竣成期限明治三十五年拾月拾日

軍令部長



次長



第一局



副官



副官



參事官

三十二年五月九日起案

五月十日

發付

蓋

大臣 權次官



軍務局長



造船課長



兵器課長



軍事課長



訓令案

軍艦浪速兵装別紙通其存於改正方取計

軍令第一八三二號

海軍



フべし之ニ伴フ船體部ノ工事ハ船形造修試験検査  
規則第百二十七條ノ依リ工事方策ハ費概算等ヲ提  
出シ認可可ク多クニ

明治三十二年五月廿日 海軍大臣

呉鎮守府司令長官

官録八三三號二

軍艦改良工事方別紙通 呉鎮守府  
訓令第百廿九号

明治三十二年五月十日 海軍大臣

呉鎮守府司令長官

<p>一前後二十六榴克砲二門ヲ四十口径安式十五榴速射砲二</p>	<p>門ニ換装スルコト  <small>但十榴速射砲中心現在二十六榴砲中心同位置ニ据付ルコト</small></p>	<p>一水壓機全部ヲ取除クコト</p>	<p>一水壓轉舵機ヲ通常ノ蒸氣轉舵機ニ改ムルコト</p>	<p>一四十七密米保式重速射砲六門並一甲四連諾典砲</p>	<p>六門ヲ四十七密米山内重速射砲十門並山内輕</p>	<p>速射砲二門ニ換装スルコト</p>	<p>一改正砲数英彈丸数左ノ如シ</p>	<p>改正砲数英彈丸数</p>	<p>現在砲数英彈丸数</p>	<p>安式十五榴速射砲 二門</p>	<p>二十六榴克砲 二門</p>	<p>彈丸 三〇〇個</p>	<p>彈丸 一四〇個</p>
----------------------------------	--	---------------------	------------------------------	-------------------------------	-----------------------------	---------------------	----------------------	-----------------	-----------------	--------------------	------------------	----------------	----------------



軍務局長



造船課



軍艦浪速無装路止件訓令<sup>成</sup>自<sup>の</sup>右取  
止<sup>の</sup>俾<sup>の</sup>船體部<sup>の</sup>入費<sup>の</sup>中<sup>の</sup>年<sup>の</sup>交<sup>の</sup>造<sup>の</sup>船<sup>の</sup>及<sup>の</sup>修<sup>の</sup>理<sup>の</sup>  
費<sup>の</sup>積<sup>の</sup>貯<sup>の</sup>金<sup>の</sup>額<sup>の</sup>等<sup>の</sup>付<sup>の</sup>配<sup>の</sup>付<sup>の</sup>豫<sup>の</sup>算<sup>の</sup>申<sup>の</sup>上<sup>の</sup>支<sup>の</sup>  
弁<sup>の</sup>答<sup>の</sup>旨<sup>の</sup>旨<sup>の</sup>豫<sup>の</sup>算<sup>の</sup>分<sup>の</sup>割<sup>の</sup>方<sup>の</sup>同<sup>の</sup>行<sup>の</sup>了<sup>の</sup>協<sup>の</sup>議<sup>の</sup>  
方<sup>の</sup>向<sup>の</sup>増<sup>の</sup>設<sup>の</sup>迄<sup>の</sup>迄<sup>の</sup>付<sup>の</sup>行<sup>の</sup>了<sup>の</sup>協<sup>の</sup>議<sup>の</sup>

三十三年一月十一日 局長

軍務局長 吉田

造船第四九二號

(五五二五)

軍務局長



横鎮第一七〇七號



横鎮第一七〇七號

軍務局長ノ其書ヲ改正スルコトニ内定有之ニ付  
社務部ニ委スル事ノ件ニ付厚生部四九二号  
出頭ノ旨ヲ通知シテ左ノ如キ事ニ付  
千五百圓ノ本年分経費部生部及修理費ノ部  
分ニ配付ノ際其内ニ支拂方ニ見込  
ニ付テ之ヨリ少額ノ斗  
差也

明治三十二年五月七日

軍務局長ノ其書ヲ改正スルコトニ内定有之ニ付

諸君ニ向テ此ノ旨ヲ通知スル事ニ付

軍造第四九二號

海

軍

軍務局長



造船課長



兵器課長

甲

軍艦修理、兵装ヲ別紙ノ通改正スルコトニ内定お成ハ  
 月異鎖寺村ノ修繕ノ換ノ等ノ席リ以テ  
 施行セシムルノ方ニ然リ有ル之ニ要スルノ費同付ニ  
 同令ノ如船體部概算別紙ニ示シ通金比約四千五  
 百円ノ要スル旨回答有リ此ノ右金額如年一  
 經常部造船及修理費ノ貴付ノ配付ノ豫算内ニテ  
 支辨ノ内申差支ニテ或至急取調ヲ回報ス  
 成モ也

追テ申ス金銀若シ經常費ニテ支出難相叶見

軍造第四二號

海軍

洋  
算

此の頃の軍事費の概算は、本多の操練高  
陸軍の十分の一、内和泉元元、陸軍  
より信用支弁、不相叶、裁、両儀、  
潤、成、色、  
三、三、三、日、二、日、局、長、  
積、取、司、令、金、支、文、

積取司令金支文

(安達印行)

甲

軍艦復修

一前後二十六姆克砲二門ヲ四十日至安式十五姆連射砲

二門ニ換装スルコト

一水壓機全部ヲ卸スコト

一水壓轉舵機ヲ通常ノ蒸氣轉舵機ニ改メルコト

一四十七密米保式重連射砲六門及一甲四連諾曹砲

六門ヲ四十七密米山内重連射砲十門及山内輕

連射砲二門ニ換装スルコト

現在砲數及彈丸數

改正後砲數及彈丸數

二十六姆克砲

二門

安式十五姆連射砲

二門

彈丸

一四〇個

彈丸

三〇〇個

三  
宣



安部十五海陸射砲	彈丸	四十七密保式重連射砲	彈丸	一尹四連諾曹砲	彈丸
六門	七八〇個	六門	二〇〇個	六門	三四〇〇個
安部十五海陸射砲	彈丸	四十七密保式重連射砲	彈丸	四十七密保式重連射砲	彈丸
六門	九〇〇個	一〇門	四〇〇個	二門	八〇個

計 四

(安達印行)

乙

一金計約四千五百円

拾五相連射砲据付に伴て砲台改造彈薬昇降口防禦雨除  
 費揚彈揚薬機新設に伴て彈薬通筒改造費及水  
 壓機全部ヲ取除キ水壓轉舵機ヲ通帯ノ空氣轉舵  
 機ヲ取止及之に伴テ総テ轉舵装置費ヲ算シ重軽四十  
 セミリ山内連射砲据付に伴て砲台改造費及彈薬庫絶  
 対改造費

工事終了日約ハ倉倉到達ノ日ヨリ四月月間

山内射撃



1145

GENERAL JAI

軍務局長



造船課長



電信彙

良速兵装改正に係り船体部入費は約四千五百円  
修理費、豫算配付額内より支拂い得んや  
度者ありとす

三十二年五月二日 局長

島根司令官

様本第三番

海軍省軍務局

啓

同前山平之存貯

吳鎮守府

吳鎮守府

天一部  
黄三部

海

吳鎮守府ニ。五七号ニ。海軍省ノ軍艦展建兵  
装改正ノ件ニ。施力ヲ要スル船体及兵器部ニ事  
計画図面別紙ニ。二二章(船体部三章)ノ通調製  
付及序送付矣下  
明治三十二年五月九日

天一部  
坂三部

吳鎮守府

吳鎮守府二〇五七号ニ、添補之ヲ軍艦履達兵  
装改正ノ旨ト施シ、ハ要スル船体及兵器部ニ事  
計画圖面別紙ニテ、（船体部ニ事）（兵器部ニ事）ノ通調製ヲ  
付及、（船体部ニ事）（兵器部ニ事）  
明治三十二年五月九日

吳鎮守府

海軍省軍務局

啓

様本第三號

軍務局長

兵器課

共鎮第〇九七號



斗兵才五六〇号、軍艦浪連兵装之牙、  
街照會、概了、取調之必左記、通了、有  
之、後、案、式、段、及、以、面、答、候、也

此等計畫、固、南、に、後、下、り、り、送、付、可、也  
明治三年己酉二月二十七日

伊達町丹上三鎮守府司令長官

諸國軍務局長殿

送兵廠所掌

一金十尾萬六千貳百四拾圓

且、於、五、相、連、射、砲、重、輕、等、七、了、山、内、連、射、砲

軍兵第五〇號

毎

軍





兵器課長 答

電報 三月三十一日

造船課

吳造船廠

復速兵装圖ナク造船廠ニテ計畫出来  
バ船體改造豫算見込立ニス圖至急回  
送アリタシ又彈藥數量通知アリタシ

五電東

浪速兵装彈藥數量在り取合一返付せり  
三月三十一日付、 呉先取

呉先取教アリ

山口野行

1152

局	着	局	發
印 冊 日	取受 報 信	分 字	第 號
	六 八	八 七	九 七
	分	分	日 號

人 信 發  
受クモキヨク  
ソラセシクワ

着 第 十 二 号	日本政府電報送達紙
事 記	
リ	ハツ
カ	子
セ	ア
シ	マ
ス	モ
ン	ズ
エ	ニ
ア	リ
ク	テ
ハ	ヨ
カ	シ
ヘ	ハ
ト	ツ
ニ	ヨ
マ	
ニ	
マ	
ツ	
ヨ	

人 信 發

(七 印 冊 日)

1153

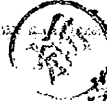
第三部

副官

艦政本部長

海軍部

海軍部



英領第三二六四號

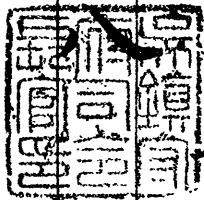
報告

浪速艦首尾付著裝飾三十一年六月官房式

六式七号ニ依リ取除キ其條此告報告也

明治三十三年六月十五日

吳鎮守府司令長官柴山矢



海軍大臣山本権兵衛殿

海軍



軍務局



副官

第二部長

第一部長

第四部長

部員

吳鎮才一。四七号、三ヲ以テ上申  
 軍艦常務若兩舷汽罐室内補汽管、  
 間、接續管及交通弁新設、件理由書  
 中不審、廉有、貴府務候部員、照會、  
 別紙寫、如、面、其、三、三、付、尚、寫、取、調  
 致、候、免、角、當、時、在、テ、現、成、テ、差、支、  
 認、候、付、  
 即、以、由、進、  
 難、  
 上、申、書、  
 監本第六四號

母 巨

常 七

二十三年七月十六日

吳鎮司合老友示

本部

年

山口印行

第四部長

機第五〇六號ノ二

艦本四才四〇号ノ出立会、趣了義速に艦隊長提出理由書尚書  
 調査ノ上内蔵ノモ交渉致し、屢致極理由書中ノ文字適切ヲ致リ  
 モノ有之美ガ為メ、解了解相成事々次方ニシテ、實際新設ノ要メ  
 ルニ相違之ヲ認ノ事、奉御認可相成ノ様御所計有之度  
 希望ノ至、不堪片左、必要ト認之理由申添也

一 艦隊長意見書、添付セル理由書ノ意味ハ平素場合ノ居モ

多ク副艦ヲ使用スル片ヲ指シ、モノミシテ、此場合ニ於テ左

艦側特ニ前部、補汽管、格所ヲ生スル片ハ諸般補機、連

転ヲ停ル、止ラ得カニ至ルベシ（然レ此場合ニハ更ニ主艦ヲ使用

スル片ハ純ガ的、各補機ノ運転ヲ廢スルモノニアラズ）又理由書ノ

艦本四第〇六號ノ二

海軍

後段実戦之々々唯必要ノ理由ヲ強メテ陳ベシトシ過キカレ由テ片  
字句ノ不適當中ノ最モ不適當ナルモノト認ラレシキ

以上ノ次オナルヲ以テ手素左舷前補機汽管ノ破損ノ片ハ勿  
論其他諸命ノ摺合、コフレシト接合部ノ付テ直シノ如キ摺合

至ルニテ且都度副罐ノ使用ヲ廢シテ主罐ニ止スルハ余々好  
コレカラナル義(補機専用ニ主罐ヲ用フレバ)ニシテ僅カニ二十五六基ノ

重量増加ト僅カナル費用ニテ足ル新設管ニ依リテ此等不利  
ヲ避ケ得ルトセバ寧リ新設ヲ許可セラハ方ヨシト存ス

明治三十三年七月十日

浮見三 鐵守 存 機 岡 部 長

宮原 海軍 行政 本部 方 四 部 長 殿

(藤元榮實納)



艦水四第 四

第四部長官

別紙、通、貴府去々々取上申、修、取調身処左  
、件、不審有之、現構造、テモ差支、有之、様  
、存候間、寫、現汽管構造、上、通否、付、所  
、考定、上、取、部、取、成、至、以、取、及、取、照、會、多、也

三十三年七月三日

才四部 取

吳鎮機 取

一、理由書中、汽罐室、内、補、汽管、才、一、箇、ヲ、示、カ、如、相、交、通、セ、  
、以、テ、一、能、倒、ノ、汽管、ニ、些、少、ノ、故、障、ヲ、生、ス、コト、ア、モ、之、ヲ、修、理、

〇號



普修牙

重德常務西院汽鐵管南浦汽鐵之間接統管及

交通年新政三載ニ上申

津浦常務西院汽鐵管南浦汽鐵間接統管及交通年新政三載ニ上申

重德常務西院汽鐵管南浦汽鐵間接統管及交通年新政三載ニ上申

書ノ函ヲ施月ニ上申シテ案者平一ノ謬ヲ上申シテ

小島道長ノ函長ノ意見書上申シテ此書上申シテ

昭和二年二月二十日

普修牙

大塚元



可也考其程多印後予之指日理也

一西云此鐵包内神流吾向接接至其用系於没

方接引以才二高四下三高之重也如神流吾并浦流

續一同接接吾之流之之其通系之其西松浦

流鐵包之車独係用之其林才之

海流鐵包内神流吾之別也亦不在高之系其也其

通是之其于一社例海至之谷少之厚之生之

ト是也之其何理之其流神包係用之係止之

ハハ之其何理之其流神包係用之係止之

スニトアランカ也其浦林全取之係用之其能其

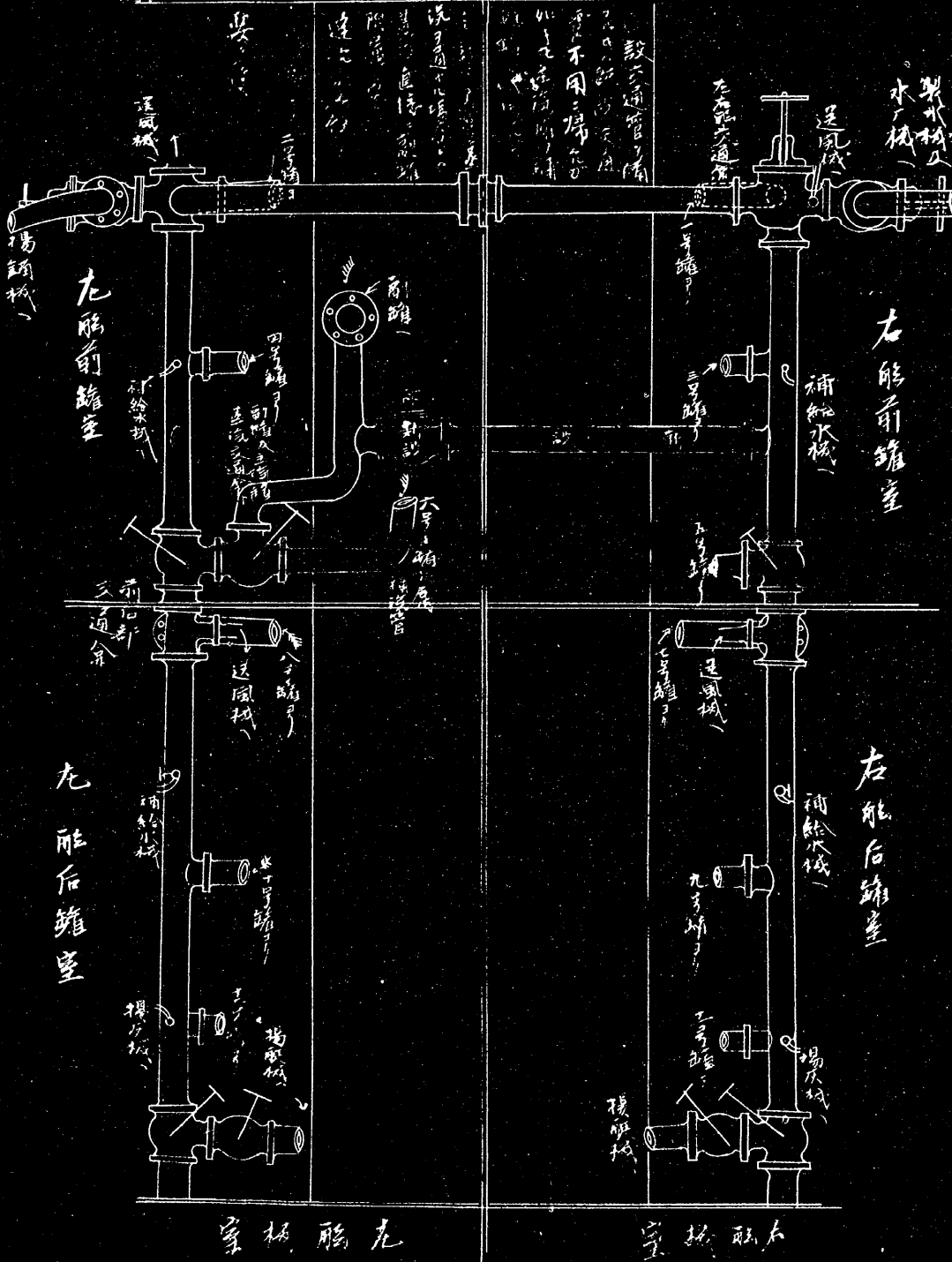
海  
置



別冊第壹号

# 軍艦常艦洋燼室補助蒸氣管接続管及交通弁新設計面圖

汽罐室補助蒸氣管接続管及交通弁新設計面圖



海軍

別紙本月上右呈様申分五〇六号ノ二回答ニ添付  
可成之旨候様申分及在子付ル也

寛政十一年七月二十一日

深之呈様申分御返長

宣子經改本御返長御